

シグマ委員会核データ情報・評価専門部会
評価ワーキンググループ会合メモ

日 時 昭和44年7月3日 1:00~5:30
場 所 東海研第5会議室
出席者 山本(日立), 川合(NAIG), 西村(原研), 飯島(NAIG)
中村(富士), 岩城(MAPI), 加藤(原研), 浅見哲(原研)
鹿取(東教大), 村田(NAIG), 中嶋(法大), 神田(九大)
八谷(三井造船), 吉村(船研), 山越(船研), 金森(原研)
松延(住友), 五十嵐(原研)。

1. 旧核データグループでの評価作業の報告

カーボン全断面積の評価(西村), U-238非弾性散乱断面積の評価(五十嵐), MeV中性子の標準反応断面積の評価(神田), Fe, Ni, Cr, Moの(n, γ)反応断面積の評価(西村)について経過の報告があった。

2. 作業の分担と進め方

- o核データ情報・評価専門部会で提案のあった内容に若干追加した内容が再提案された。
- o作業の進め方とまとめ方について多くの討論があった。

主な内容は,

- i) 短期間に行なうものと長期にわたって行なうものの二本立てが必要である。
- ii) 一本の線にまとめた recommended valueが望ましいが, それが難しい場合は data point を plot しただけのグラフでも良い。
- iii) 一本の線はいずれ改良して行くものだから線を引くことに重大な責任を感ずる必要はない。
- iv) 日本の refereuce data としての意味を持たせることが目的である。他の data setとの比較の対象として皆が使ってその結果を報告してもらい, 次の作業の土台にすることが大切である。

○当ワーキンググループとしては実験データをグラフ用紙にプロットし、それぞれ reference data としての線をつけ、error の範囲、問題点を明示したものを output とする。

○他の evaluated data との比較も行なう。

○作業の内容と分担は以下の通り

1. standard cross section を調べる。

$H(n, n)$, $Li^6(n, \alpha)$, $B^{10}(n, \alpha)$, $C^{12}(n, n)$, $U^{235}(n, f)$,
 $S^{32}(n, p)$, $Mg^{24}(n, p)$, $Ni^{58}(n, x)$

八谷, 神田, ○中嶋, 浅見(哲), 西村, 川合, 五十嵐

2. U^{235} , U^{238} , Pu^{239} , Pu^{240} の

σ , σ_f , σ_c , σ_{tot} , ($\sigma_f^{49}/\sigma_f^{25}$, $\sigma_c^{28}/\sigma_f^{25}$, $\sigma_c^{40}/\sigma_f^{25}$ etc
を含む)。中村, ○飯島, 川合, 中嶋, 山本

3. Fe, Ni, Cr, Mo, Na, O^{16} , Ta の

σ_c or σ_a

金森, 山越, 吉村, 八谷, 浅見(哲), 中村, ○西村, 五十嵐,

4. U^{238} , Pu^{240} , Pu^{239} , U^{235} , Fe, Ni, Cr の $\sigma(n, n')$

松延, 金森, 山越, 村田, 中村, ○五十嵐

5. U^{235} , U^{238} , Pu^{239} , Pu^{240} の resonance parameter

飯島, ○山本, 中嶋, 川合, 松延

6. U^{235} , U^{238} , Pu^{239} , Pu^{240} , Na, C, O^{16} , Be, Fe

Ni, Cr の σ_{el} , $\frac{d\sigma_{el}}{d\Omega}$

金森, 山越, 村田, ○鹿取, 神田, 五十嵐

(○印は世話人)

データ収集の際調べた文献は旧核データグループが使用していたデータシートに記入する。

作業は本年度内にまとめることを目標とする。計算費は現在300万円まで使用可能。

3. 次回は8月末を予定